

平成 30 年 6 月 15 日現在

機関番号：14503

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K04556

研究課題名(和文) 行動問題を示す自閉症児の保護者への療育の主体性を促す支援プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of the programs on parent-implemented interventions to proactively improve behavior problems for children with autism spectrum disorders

研究代表者

岡村 章司(okamura, shoji)

兵庫教育大学・学校教育研究科・教授

研究者番号：00610346

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：行動問題を示す自閉症児の保護者支援を「療育支援」と「保護者自身への支援」の2つの観点から整理し、統合化した保護者支援プログラムを開発することを目的とした。本研究の結果、保護者の実態、自閉症児の行動問題の程度に応じた、主体的な療育を促す5つの支援アプローチが以下に示された。学校での指導を充実させるための保護者連携、保護者による行動問題の予防的介入、保護者による行動問題への機能的アセスメントに基づく積極的介入、保護者自身の課題に対するメンタルヘルス支援、との統合型支援。さらに、各アプローチを小学校、特別支援学校において適用した結果、親子両方への効果を明らかにすることができた。

研究成果の概要(英文)：This study was developed parent support programs to proactively improve behavior problems for children with autism spectrum disorders. The programs integrated the support to enhance parents' capacity to promote their children's development and the support to manage their own emotions, cognition, and behavior. Results indicated five support approaches according to sense of coherence in parents and child's behavior problems. (1) parent involvement to develop interventions in a school, (2) parent-implemented intervention to teach skills to a child, (3) parent-implemented functional assessment-based intervention to reduce child's behavior problems, (4) mental health support for parents reported high levels of stress, (5) the support integrated parent-implemented functional assessment-based intervention and mental health support for parents reported high levels of stress. The effect of each approach on both parents and children was shown in elementary schools and special schools.

研究分野：発達障害臨床心理学

キーワード：行動問題 保護者支援 自閉症 主体性

1. 研究開始当初の背景

自閉症児をもつ保護者への支援には、保護者が子どもに対して介入することを目的とした、子どもへの具体的な療育に関する知識やスキルを教授する「療育支援」がある。しかしながら、こうした支援について、問題の解決がもつばら家族に依存し、家族が疲弊の極みにあることも少なくない現状がある。特に、自閉症児の保護者は多くの研究で高いストレスを示すことが指摘されており、自閉症児の保護者が子どもに体系的な介入を継続することは困難である可能性が高いと考えられる。さらに、自閉症児が行動問題を示す場合、保護者の療育に対する否定的な捉え方が増大したり、夫婦間の療育に対する考え方のずれが生じたりといったように、より保護者が療育に向き合いにくくなる。こうした保護者に対して、ストレス管理などの「保護者自身への支援」が必要となる。

これらの「保護者自身への支援」と併せた「療育支援」の効果が実証された具体的な支援プログラムはみられず、「保護者自身への支援」を統合した、保護者が主体的に療育に携わることを目的とした支援プログラムが求められると考える。

2. 研究の目的

本研究では、行動問題を示す自閉症児の保護者支援を「療育支援」と「保護者自身への支援」の2つの観点から整理し、統合化した包括的な保護者支援プログラムを開発することを目的とした。第1に、行動問題を示す自閉症児をもつ保護者へのニーズ調査および事例研究を実施する。第2に、ニーズ調査の結果に加えて、研究代表者によるこれまでの保護者支援に関する研究成果をもとに、保護者自身への支援を含んだ包括的な支援プログラムを開発し、学校現場において適用する。自閉症児への効果と併せて、保護者の身体的な健康やストレスや不安といった心理的要因を含めて客観的な評価を行う。それらの効果の検討と併せて、教師が保護者支援を実施する際の条件と課題を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 行動問題を示す自閉症児の保護者に対するニーズ調査及び事例研究

1) 保護者に対するニーズ調査

自閉症児の行動問題(CBCLで測定)、知的障害の有無、保護者の人生をプラスに志向する感覚であるストレス対処力(Sense of Coherence; SOC)を基にした保護者のタイプに応じたニーズの違いを明らかにし、実態に応じた支援について検討した。複数地域の保護者419名に質問紙を配布し、186名の回答を得た中で、小中学生のASD児をもつ保護者104名を対象とした。SOCとCBCLのT得点を基に構成した対象者群のニーズ得点の違い、知的障害の有無とCBCLのT得点を基に構成した対象者群のニーズ、SOCの得

点の違いを分析するため、ノンパラメトリック検定を行った。

2) 教師に対する行動問題を示す自閉症児の保護者との連携に関する調査

通常の学級担任が行動問題を示す自閉症児の保護者と連携しながら介入を行うプロセスとそれにかかわる要因を明らかにすることを目的とした。行動問題を示す自閉症児の保護者と連携し問題解決を図ってきた、通常の学級担任であった大学院生を主とした10名を対象とした。対象者や事例の属性に関する内容をフェイスシートに記入を求めた後、1対1の半構造化面接を行った。①行動問題を示す自閉症児に対する介入内容、②介入に伴い、保護者とどう連携してきたか、③児童の実態や課題、介入方針について保護者と共通認識を得られたか、について時系列で語るよう促し、最後に、④自閉症児が行動問題を示すことは保護者との連携を促しやすいか、⑤学校が保護者と連携する意義について聞き取りを行った。面接時間は平均68.5分であった。インタビュー内容は許可を得てICレコーダーに録音し、録音したデータをもとに逐語に書き起こした。逐語録を、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(木下, 2003)を用いて分析した。

3) 行動問題を示す自閉症児の保護者を対象とした事例研究

行動問題を示す自閉症児に対して、高いストレスをもつ母親が機能的アセスメントに基づく介入を家庭で実行するための支援の効果を検討した。自閉症児は自らを否定的に語ることがみられ、遊びをやめる際に机をけるなどの行動問題を多く示した。母親はこれらの行動が生じる原因は自らの言動であると捉えていた。面接では、母親の記録に基づき、行動問題が生じた、および生じなかった状況や要因、介入方略を語るよう促し、特に母親の適切な対応を強調し望ましい結果を称賛した。

(2) 行動問題を示す自閉症児の保護者支援プログラムの開発及び適用

自閉症児の行動問題の状況、及び保護者のタイプに応じた、療育支援と保護者自身への支援の組み合わせのカテゴリーを仮説的に構成し、支援プログラムを作成した。さらに、小学校、特別支援学校において、支援プログラムを適用し、効果を検証した。

4. 研究成果

(1) 行動問題を示す自閉症児の保護者に対するニーズ調査及び事例研究

1) 保護者に対するニーズ調査

行動問題を多く示す自閉症児をもつ、SOCの把握可能感が低い保護者は、「情報に関するニーズ」「他者への説明方法に関するニーズ」が高いことが明らかになった。それらの保護者に対しては、行動問題の知識や技術を提供しながら理解を高め、保護者のストレスに配慮しながら日々の状況のモニタリング

を促す支援が必要とされると考えられた。また、行動問題を多く示す知的障害のない自閉症児をもつ保護者は、保護者自身や家族に関する支援に加えて、関係者への子どもの状態に関する説明を可能にする支援が重要であることが示唆された。把握可能感といった保護者の実態に関するアセスメントの重要性、それらのアセスメントに基づく支援のあり方を検討する必要性が明らかになったと言える。

2) 教師に対する行動問題を示す自閉症児の保護者との連携に関する調査

自閉症児の介入を行い学校の様子や介入に関する情報開示をしながら、行動問題への対応に関して保護者の参画を高め、行動問題の減少などの成果等を共有するといった、保護者との協働プロセスが明らかになった。こうしたプロセスの中で、担任は保護者に対するコミュニケーションの工夫を日々行っていた。また、校内支援体制、担任の教師としての役割認識がこうした連携を可能にすることが示された。しかしながら、学校における行動問題が減少することを目的として保護者と連携するにとどまり、家庭内での行動問題に対する介入までには至らないことも示唆された。

3) 行動問題を示す自閉症児の保護者を対象とした事例研究

母親は行動問題の先行事象や結果事象および介入方略を自発的に語る事がみられ、行動問題は減少した。長男や自らの肯定的な評価、望ましいかかわりに関する語りもみられた。さらに、母親の精神的健康度が上昇し、不安水準も低減した。以上の結果から、自閉症児の行動問題が限定的な場面で示されていた場合、把握可能感が低いと推測される保護者に対しては、介入の主体性を促す、母親の記録に基づく保護者の強みを強調する支援者のアプローチの効果が示された。

(2) 行動問題を示す自閉症児の保護者支援プログラムの開発及び適用

1) 支援プログラムの開発

(1)の結果およびこれまで筆者が実施してきた事例研究の結果より、保護者の把握可能感、自閉症児の行動問題の程度に応じた、主体的な療育を促す支援のタイプを Fig. 1 に示した。①学校での指導を充実させるための保護者連携アプローチ、②保護者による行動問題の予防的介入アプローチ、③保護者による行動問題への機能的アセスメントに基づく積極的介入アプローチ、④保護者自身の課題に対するメンタルヘルス支援アプローチ、⑤保護者への統合型支援アプローチ—保護者による機能的アセスメントに基づく介入と保護者のメンタルヘルス支援—。併せて、支援の内容や方法を明らかにした。

2) 支援プログラムの適用

小学校、特別支援学校において各アプローチを適用し、実地研究を行った。

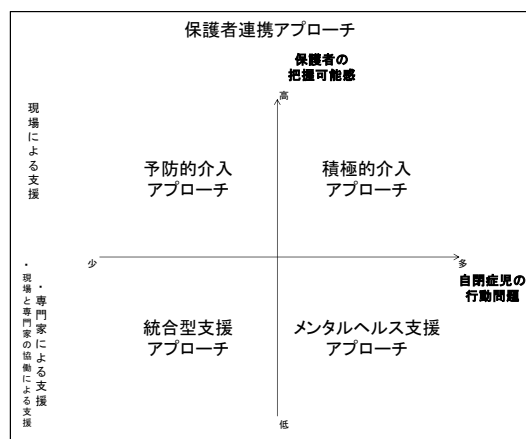


Fig. 1 保護者の実態に応じた支援プログラム

「保護者連携アプローチ」では、特別支援学校の教師を対象に保護者面接の基本的スキルの講義と演習を取り入れた全5回の研修を実施し、その効果を検証した。その結果、模擬面接において、傾聴行動、事実の聞き取り行動、強化する行動といったコミュニケーション行動の増加がみられた。

「予防的介入アプローチ」では、特別支援学校の特別支援教育コーディネーターによるコンサルテーションを通して、母親が自閉症のきょうだい児に対して家庭で介入を行った。その結果、きょうだい児両者が帰宅後の片付けを一人でできるようになった。段階的な介入の導入、母親による記録の効果が示された。

特別支援学校において、自閉症児の行動問題への「積極的介入アプローチ」を3事例に対して実施した。1、2事例目では、担任の継続的な介入の結果、行動問題は減少し、保護者の自閉症児へのかかわりが変容した。保護者に対して記録によるモニタリングを促したり、学校で事前に指導した内容を家庭に導入したりするなど、整理した支援内容や方法の効果が示された。さらに、特別支援教育コーディネーターによるコンサルテーションや事例検討会における、介入計画の定期的な検討機会、担任への肯定的なフィードバックが継続的な保護者支援の実行につながると示唆された。さらに、1事例目では教師と保護者の関係尺度、2事例目では母親の精神的健康度の改善がみられた。3事例目では学校での教育相談を定期的実施した。特別支援教育コーディネーターが個別指導を行う中で、自閉症児とのかかわり方について保護者にモデルを示しながら助言し、成果がみられてきた。

さらに、場面緘黙を伴う、知的障害のない自閉症児の母親と小学校特別支援学級担任を対象に、保護者と学校の相互作用を促すためのコミュニケーションや協働のスキルといった、保護者と学校の協働の方法に焦点を当てるコンジョイント行動コンサルテーションを実施した。その結果、支援者による対象児への直接的な介入を行わなかったが、対

象児の学校生活での活動参加、コミュニケーション手段が増えた。担任と母親の両者を交えて介入内容・方法を決定したことは、両者の日々のやりとりを増やし、相互のやりとりから強化される関係を形成したと考えられ、両者の取り組みを促したのではないかと推測される。

「統合型支援アプローチ」では、小学生 2 事例において、保護者に対して、子どもの行動に関する ABC 分析を促す支援を行った。その結果、支援者から具体的な介入案を提示しなかったものの、母親の行動変容及び子どもの行動変容がみられた。適切な子どもへの対応といった保護者の強みを強調した、保護者自身の行動のモニタリングの有効性が示された。

今後は、各アプローチの事例研究を学校現場で蓄積していくなかで、行動問題を示す自閉症児の保護者の実態に応じた支援プログラムを精緻化する必要がある。特に、「学校での指導を充実させるための保護者連携アプローチ」、学校関係者も参画する「保護者自身の課題に対するメンタルヘルス支援アプローチ」の事例研究が求められる。また、本研究で開発した保護者支援プログラムの具体を適用するにあたり、学校においては保護者と連携する方法論が乏しい現状があった。多くの教師に対して、保護者とともに問題解決を図ることを目的とした協働のための知識や技術を提供する必要性が高く、保護者支援に関する系統的な教師研修プログラムの検討を行う必要があると考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 9 件)

- ① 岡村章司、行動問題を示す自閉スペクトラム症児の保護者への主体的な療育を促す包括的支援プログラムの検討、兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科博士論文、査読有、2017
- ② 岡村章司、渡部匡隆、自閉症スペクトラム幼児の両親に対する夫婦間コミュニケーション行動を促す支援の検討、カウンセリング研究、査読有、50、印刷中
- ③ 岡村章司、高いストレスを持つ保護者による行動問題を示す自閉症児への家庭での介入を促す支援方略の検討—強みに基づくアプローチを通して—、特殊教育学研究、査読有、54、2016、257-266
- ④ 岡村章司、特別支援学校のセンター的機能を促す特別支援教育コーディネーターの役割—小・中学校の巡回相談の実践を通して—、LD 研究、査読有、25、2016、338-348
- ⑤ 朝岡寛史、熊谷正美、岡村章司、渡部匡隆、自閉症スペクトラム児の自発的な空間的視点取得に関する研究—再認プロンプト手続きの指導効果の検討—、自閉症スペクトラム研究、査読有、14、2016、5-11
- ⑥ 岡村章司、特別支援学校における自閉症児

に対する保護者支援—母親の主体性を促す支援方略の検討—、特殊教育学研究、査読有、53、2015、35-45

- ⑦ 岡村章司、渡部匡隆、広汎性発達障害児の保護者が示す子どもを叩く行動の変容：行動記録を用いたカウンセリングの効果の検討、特殊教育学研究、査読有、52、2015、369-379
- ⑧ 朝岡寛史、岡村章司、渡部匡隆、自閉症児における授与動詞構文の指導～自己動作を用いた指導方法の効果の検討～、自閉症スペクトラム研究、査読有、12、2015、5-12
- ⑨ 市川 哲、井澤 信三、岡村 章司、自閉症スペクトラム傾向が高い大学生の対処資源が将来志向コーピングに及ぼす影響、兵庫教育大学学校教育学研究、査読有、28、2015、63-71

〔学会発表〕(計 36 件)

- ① Shoji Okamura & Tomoko Owaki, Parent-implemented intervention for a child with behavior problems: Promoting self-monitoring based on the 3-term contingency, Association for behavior analysis international's 11th annual autism conference, 2017
- ② 岡村章司、井澤信三、熊谷正美、藤本優子、有川宏幸、小笠原恵、行動問題を示す自閉症児に対する保護者支援の在り方 2—学校現場で「できること」—、日本特殊教育学会第 55 回大会、2017
- ③ 岡村章司、通常学級担任が行動問題を示す自閉症児の保護者と連携した支援プロセスの検討、日本特殊教育学会第 55 回大会、2017
- ④ 大脇知子、岡村章司、特別支援学校における保護者面談に関する教員研修の効果の検討—グループによるロールプレイを通して—、日本特殊教育学会第 55 回大会、2017
- ⑤ 三田地真実、岡村章司、原口一郎、遠藤佑一、佐藤智彦、問題行動に対応できる教員養成のためのビデオ動画の効果—応用行動分析学 (ABA) の基礎知識の理解を促進するツールとしての活用—、日本特殊教育学会第 55 回大会、2017
- ⑥ 石津乃宣、岡村章司、ABA に基づく特別支援学校初任者研修の効果検討—専門家と連携して実施した校内研修—、日本特殊教育学会第 55 回大会、2017
- ⑦ 三田地真実、岡村章司、実政修、田熊立、縄岡好晴、竹林地毅、支援会議を活性化させる「ファシリテーション」、日本特殊教育学会第 55 回大会、2017
- ⑧ 田中真理、岡村章司、廣澤満之、岡澤慎一、浜田寿美男、井上雅彦、障害児との関係のなかでひらかれる意味世界の共有」をめぐって、日本特殊教育学会第 55 回大会、2017
- ⑨ 名村嘉将、岡村章司、小学校の特別支援教育コーディネーターに対する参画型研修

- の効果—コーディネーションの役割に焦点を当てて—、日本特殊教育学会第 55 回大会、2017
- ⑩大脇知子、岡村章司、自閉スペクトラム症児を持つ養育ストレスの高い母親への支援—適切な行動に特化した ABC 分析を通して—、日本行動分析学会第 35 回年次大会、2017
- ⑪ Mami Mitachi, Shoji Okamura, & Tsutomu Kamiyama, How to make your parent training successful: Building good relationships among parents, The first Asia Pacific international conference on Positive Behavior Support, 2016
- ⑫ Mami Mitachi, Shoji Okamura, Yuichi Endo, Ichiro Haraguchi, & Takayuki Sakagami, The effectiveness of video clip developed for introducing basic knowledge of applied behavior analysis (ABA) to school teachers, Thailand National Conference on Psychology, 2016
- ⑬ 岡村章司、井瀬知美、井澤信三、平澤紀子、行動問題を示す自閉症児に対する保護者支援の在り方—必要な支援の要素を考える—、日本発達障害学会第 51 回研究大会、2016
- ⑭ 石橋由紀子、岡村章司、知的障害特別支援学校の地域支援の展開とそれに影響する要因—対話の SCAT 分析から—、日本発達障害学会第 51 回研究大会、2016
- ⑮ 大脇知子、名村嘉将、岡村章司、自閉症スペクトラム児への状況絵に基づく感情推論を促す指導方略の検討—明示されない文脈の想起を中心に—、日本特殊教育学会第 54 回大会、2016
- ⑯ 名村嘉将、大脇知子、岡村章司、自閉症スペクトラム児に対するスピーチ活動の検討—内容構成の指導を中心に—、日本特殊教育学会第 54 回大会、2016
- ⑰ 森一晃、岡村章司、特別支援学校における強度行動障害を示す自閉症児への支援の検討—級友との相互作用に関する先行条件に着目して—、日本特殊教育学会第 54 回大会、2016
- ⑱ 松崎吉洋、岡村章司、幼稚園における園児の適切な行動を促す第一次予防的介入の検討—適切な支援の共有を通して—、日本特殊教育学会第 54 回大会、2016
- ⑲ 石橋由紀子、岡村章司、聴覚特別支援学校の地域支援の展開とそれに影響する要因—対話の SCAT 分析から—、日本特殊教育学会第 54 回大会、2016
- ⑳ 宇野宏幸、岡村章司、樋口一宗、小松歩、坂田俊広、藤野光裕、石橋由紀子、アクティブ・ラーニングとユニバーサル・デザインの授業づくり—子どもの学びの多様性を考えた授業デザインとその実践—、日本 LD 学会第 25 回大会、2016
- ㉑ 井上雅彦、岡村章司、五味洋一、大久保賢一、強度行動障害に対するスタッフトレーニングをどのように進めるか—機能分析的アプローチの成果と普及を考える—、日本発達障害学会第 50 回研究大会、2015
- ㉒ 朝岡寛史、岡村章司、渡部匡隆、自閉症スペクトラム児の空間的視点取得スキルの指導、日本行動分析学会第 33 回年次大会、2015
- ㉓ 岡村章司、藤田継道、緘黙の自閉症児へのコンジョイント行動コンサルテーション—親と教師のみの支援による登校・授業参加・コミュニケーションの改善—、日本特殊教育学会第 53 回大会、2015
- ㉔ 森一晃、岡村章司、自閉症のあるきょうだい児両者に対する保護者支援—両者への実行可能な支援方略の検討—、日本特殊教育学会第 53 回大会、2015
- ㉕ 深澤しのぶ、渡部匡隆、岡村章司、大河内綾子、自閉症スペクトラムのある児童生徒の教育環境の開発—知的障害のある自閉症スペクトラム児を中心に—、日本特殊教育学会第 53 回大会、2015
- ㉖ 熊谷正美、岡村章司、深澤しのぶ、大木信吾、川島慶子、片山由宇子、渡部匡隆、知的障害のない自閉症スペクトラム児の追跡調査（1）—対象児の学校卒業後の社会適応の実態について—、日本特殊教育学会第 53 回大会、2015
- ㉗ 川島慶子、岡村章司、深澤しのぶ、熊谷正美、大木信吾、片山由宇子、渡部匡隆、知的障害のない自閉症スペクトラム児の追跡調査（2）—保護者の心理的変化に及ぼす影響—、日本特殊教育学会第 53 回大会、2015
- ㉘ 三田地真実、遠藤佑一、原口一郎、岡村章司、通常学級における困った事例に対する教師の実態調査—応用行動分析学（ABA）の認知度と実際の事例に対する対応法の適切性について—、日本特殊教育学会第 53 回大会、2015
- ㉙ 岡村章司、宇野宏幸、石橋由紀子、樋口一宗、小田浩伸、大石幸二、八乙女利恵、加藤哲文、地域づくりを担う特別支援教育リーダーの役割と人材像（2）、日本特殊教育学会第 53 回大会、2015
- ㉚ 小栗逸子、岡村章司、小学校低学年児における運動能力の向上を促す支援の効果—特別支援学級児童を含んだ集団に対する体操プログラムを通して—、日本特殊教育学会第 53 回大会、2015
- ㉛ 大脇知子、岡村章司、児童の特性を踏まえた繰り下がり引き算の流暢性指導の検討、日本特殊教育学会第 53 回大会、2015
- ㉜ 迫あかね、岡村章司、小学校における校内研修会を基にした支援体制づくり—教員のニーズに応じた研修づくりを通して—、日本特殊教育学会第 53 回大会、2015
- ㉝ Shoji Okamura, Parent-implemented intervention for a child with autism spectrum disorder and behavior problems, Association for behavior

analysis international's eighth international conference, 2015

- ③④半田健、岡島純子、岡村章司、道城裕貴、岡本邦広、松見淳子、発達障害児の支援における専門家と教員・保護者の連携に関する現状と課題、日本認知・行動療法学会第41回大会、2015
- ③⑤岡村章司、井澤信三、山根隆宏、竹ノ子さつき、原口英之、井上雅彦、高機能広汎性発達障害のある人への包括・生涯的な支援プログラムを考える(3)～保護者支援のあり方を通して～、日本LD学会第24回大会、2015
- ③⑥宇野宏幸、石橋由紀子、岡村章司、小林祐子、谷芳恵、樋口一宗、井上とも子、発達障害のある子どもへの気づきを促す教員研修・養成について—演劇づくりワークショップによる現職教員と学生の学び—、日本LD学会第24回大会、2015

[図書] (計6件)

- ①三田地真実、神山努、岡村章司、原口英之訳、金剛出版、子どもの視点でポジティブに考える問題行動解決支援ハンドブック、2017、254
- ②岡村章司、丸善出版、日本LD学会(編)発達障害事典、2016、236-237、280-281
- ③宇野宏幸、石橋由紀子、岡村章司、尾之上高哉、小林祐子、新谷喜之、谷芳恵、樋口一宗、八乙女利恵、ジアース教育新社、特別支援教育における地域のトップリーダーを考える—人材像をふまえた育成プログラム開発へ向けて—(国立大学法人兵庫教育大学教育実践学叢書3)、2016、48-61、207-224
- ④岡村章司、宇野宏幸(編著)、ジアース教育新社、問題解決!先生の気づきを引き出すコミュニケーション、2016、9-19、52-61
- ⑤岡村章司、学研、井上雅彦(編著)自閉症の子どものためのABA基本プログラム家庭で無理なく対応できる困った行動Q & A、2015、88-97、114-122
- ⑥岡村章司、金剛出版、山本淳一・武藤崇・鎌倉やよい(編著)ケースで学ぶ行動分析学による問題解決、2015、86-93

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岡村 章司 (OKAMURA Shoji)
兵庫教育大学・学校教育研究科・教授
研究者番号: 00610346

(2) 研究分担者

井澤 信三 (ISAWA Shinzo)
兵庫教育大学・学校教育研究科・教授
研究者番号: 50324950

(3) 研究協力者

大脇 知子 (OWAKI Tomoko)

兵庫県立阪神特別支援学校・教諭

迫 あかね (SAKO Akane)
宝塚市立仁川小学校・教頭

名村 嘉将 (NAMURA Yoshimasa)
相生市立双葉小学校・教諭

森 一晃 (MORI Kazuaki)
愛知県立視覚特別支援学校・教諭

岸本史保里 (KISHIMOTO Shihori)
今帰仁村立今帰仁小学校・教諭